

# 市議会だより

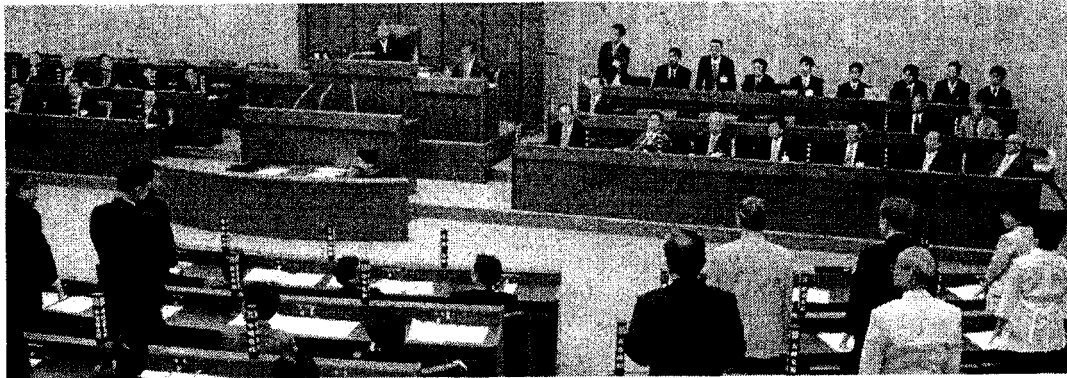
発行2008年7月3日

日本共産党和歌山市会議員団

073-435-1113

FAX 421-4181

## 「後期高齢者医療制度の廃止を含め再検討を」求める！



(賛成の起立をする、共産党市議団、無所属、民主クラブ、親和クラブの14議員、写真は一部)

和歌山市6月定例議会は、最終日の7月1日、諸議案の採決ののち、大舛主馬(日本共産党市会議員団)、木佳明(民主クラブ)、森田昌伸(新和クラブ)、石谷保和・旅田卓宗(各無所属)の5人の議員発議で「保険財政の健全化を進め、国民皆保険制度の維持を求める意見書案」を提案しました。

この意見書の提案主旨には、世界に誇れる国民皆保険制度の維持を国に対し強く求めることとともに、「後期高齢者医療制度は、高齢者の尊厳を否定」すること、後期高齢者医療制度の創設は「…お互いを助け合うという保険制度の主旨に反するもの」、「後期高齢者医療制度の廃止も含め再検討を求める」などと述べています。

この提案に、公明党議員団は反対討論で「現実を直視し未来に責任ある態度が必要」、「後期高齢者医療制度は、医療費を安定的に支え、安心して医療を受けられる。制度の廃止は無責任」などと述べました。採決で、14議員(新和・民主・共産・無所属)が賛成の起立をしました。賛成少数(議長除いて38議員)で過半数にとどかず、意見書は採択されませんでした。

「保険財政の健全化を進め、国民皆保険制度の維持、後期高齢者医療制度の廃止を含め再検討を！」  
意見書に党市議団が賛成討論

「空気」を作った  
さらに頑張ろう！  
佐藤さんが談話  
(県社保協役員)

私たち社会保障協議会の6月議会にむけた、全議員の自宅訪問、議会開会日の市役所前宣伝、250人参加の昼休みデモなどの運動が、「後期高齢者医療制度の廃止」の請願が否決された2月議会とは違った空気を作り出したと思います。また「尊厳を著しく傷つけた」制度との市長答弁にも反映したと思います。

市民の皆さんと力を合わせて、後期高齢者医療制度の廃止をめざして、さらに頑張りたいと思います。

# 大くさ主馬 市政報告

08年7月4日  
電話 435-1113

市長ゴミ有料化（一般ゴミ・資源ゴミ・粗大ゴミ）を諮問

昨年十一月に和歌山市廃棄物対策審議会に有料化のあり方及び実施方法・時期について諮問をしていました。

和歌山市のゴミ排出総量は、06年度（平18年）では十八万五千二百六十トン、処理費用は46億419万円でした。これは、対02年度（平14）年度比で、総量は96.6%、処理費用は88.44%に減っています。

この問題を、一般質問で取り上げました。今回の諮問では、「有料化先にあきではないか。市民が排出抑制・再生利用の推進に協力し、ゴミ有料化をしないで十分やっていけるのではないかと質しました。

市長は 市民の協力で「かなり大きな効果をもたらすというふうに思います。」「全国の市町村の52.9%の自治体がゴミ有料化を実施」「審議会におきましては、分別の徹底や過剰包装の抑制など、有料化以外の減量化施策につきましても議論を頂いているところでありまして、審議会の動向を見ながら対応」と答弁。審議会でも多様な意見がでて、ゴミ減量化の議論もされており、今後有料化に限らず多面的な議論が反映されるこ

とを示しました。

資源ゴミ有料化で市民の分別努力を台なしにするのではないかと質しました。

生ゴミ堆肥の利用方法を。

又、資源ゴミ有料化は市民の分別努力を台無しにするのではないのか。生ゴミ堆肥化を生かすシステム作りこそ市の仕事ではないかと質したところ、市民環境局長は「堆肥の利用方法について、生ゴミ処理機を利用されている方の意見も聞きながら、必要に応じて検討」と事態の重要性を感じていない答弁。資源ゴミについては、今年度から、カン1トンあたり6千円・ペットボトルが1トン3千円で、総額四百万の収入見込み」と答弁がありました。

有料化に反対し減量化を、の声を大きく！

現在、市民の間では地球環境問題の一つとして有料化に反対し、ごみ減量化へ。市民運動を広げていきましょう。



ゴミ減量・温室効果ガス削減など、みんなで語り合いましょ

奥村のり子 県・市政報告会  
大くさ主馬

日時・・・7月19日（土）午後2時から  
場所・・・湊御殿1丁目、大くさ（旧選挙）事務所



午後1時から  
後援会でバザーを行いますので  
お楽しみに！